プロダクトデザイン研究室

Product Design Lab.

赤井 愛

AKAi, Ai / Associate Professor

シャドウモンスター ―影絵を通じてファンタジーを体験する積み木―

Shadow monster : Building blocks to experience fantasy through shadow play

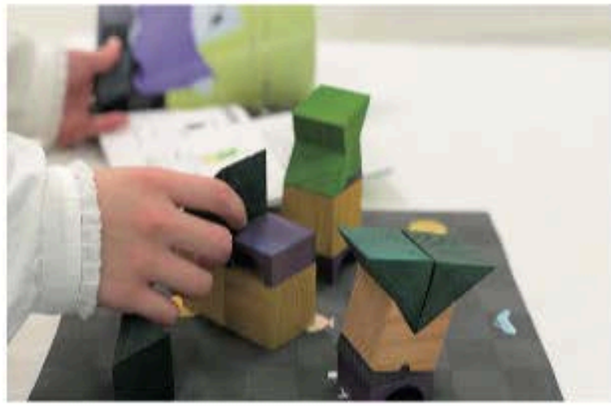
影を使った遊びってとてもワクワクしませんか？

光があるところで必ず出現する不思議な絵、影。この自然現象を用いて幻想的な世界観を体験できる積み木「シャドウモンスター」を提案します。

遊ぶために必要なアイテムは、カゲモト（＝積み木）、マドウショ（絵本）、秘密の地図、光を放つトロッコの4つです。マドウショのストーリーに沿って秘密の地図にカゲモトを組み立て、ミニモンスターを作っていきます。組み立てた多くのミニモンスターに光を当てると恐ろしいモンスターの影が出現します。

さらにトロッコを動かすことで影の姿も変化し、自分だけのモンスターを見立てる力、想像力を育てます。

影の中にモンスターを見つける力は、日常をより楽しくドキドキさせてくれるのではないでしょうか。もしかしたらあなたのすぐ近くにもシャドウモンスターが潜んでいるかもしれませんね…。



井上 浩玖
INOUE, Hiroki

はまりこむ本棚 ―ヒュッゲな時間がうまれるプロダクトの提案―

Relaxing in bookshelf : Proposal of product to create "hygge" time

"ヒュッゲ"という言葉を知っていますか？デンマーク語で「ゆったりとした心地の良い時間」またその時間を作り出して生まれる「幸福感」という意味です。

ヒュッゲは空間ではなく、そこでの人の行動によってうまれるものだと考えました。

はまりこむ本棚は、中に入ってくつろぎながら本を読むことでヒュッゲな時間をつくりだす本棚です。各面の構成が異なるため様々な方法で本をおさめることができます。また、天井部に登って寝転ぶことで普段と違う景色を楽しめます。ボックスの吹き抜けや天井部の隙間など様々な部分から光が入ってくる設計です。

外見は木材の色味を活かし、パッチワークのような構成になっています。中に入るとの別の世界が広がっており、秘密基地のように自分だけの空間に籠れます。寝そべったりもたれたり時には眠ったり…本に囲まれながら自分なりの心地の良いヒュッゲな時間を過ごしてみてください。

川地 菜月

KAWAJI, Natsuki

深海エレベーター ―音像によるユニバーサルな海中探検―

Deep sea elevator : Undersea expedition through sound image for children with or without visual difficulties

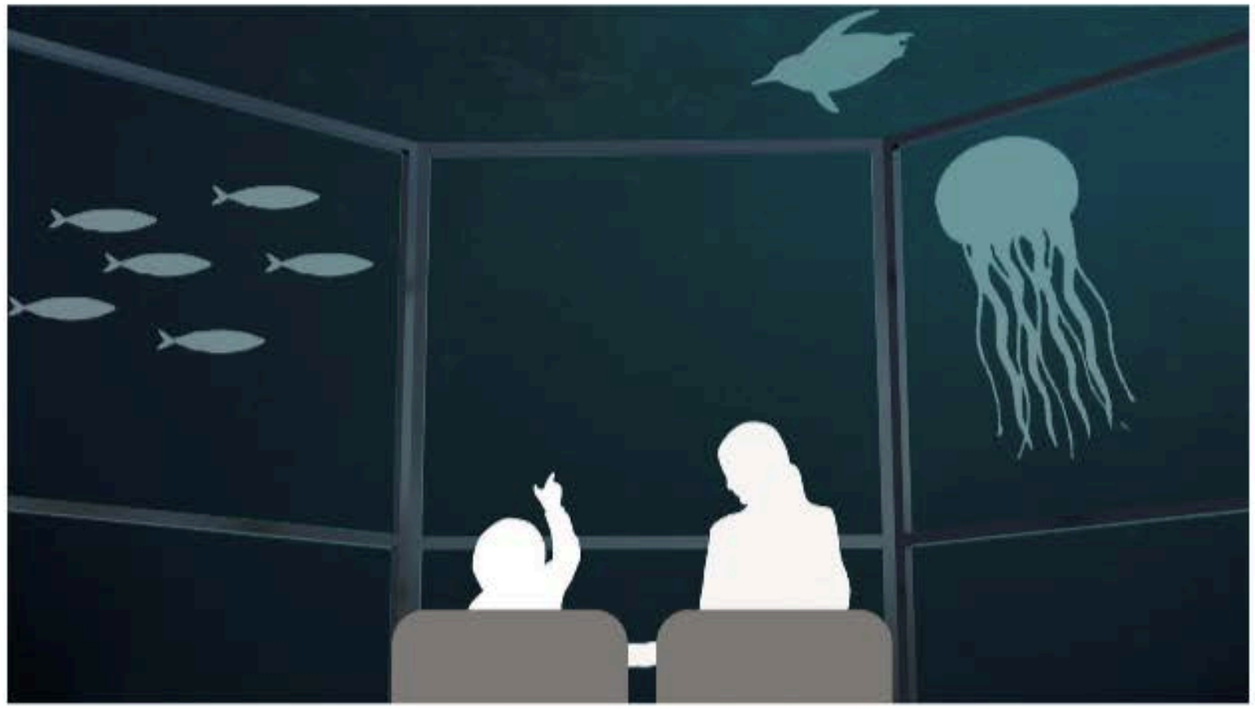
水族館は動物園に比べると音やにおいが少ないことから視覚に障がいがある人たちにとって楽しみにくい面があります。

そこで、深海を題材にすることによる視覚に依存しない海中探検を提案します。

「深海エレベーター」は音の動きによって海の中の生き物を感じることのできる体験型ブースです。

海の中の生き物をイメージした音の作成、音量や音の鳴り出すタイミングなどの加工を行い、16本の指向性スピーカーでの出力によりペンギンのスピード感やイワシの大群の遊泳などの生き物の動きを表現しました。また登場人物の会話により生き物の生態について知ることもできます。

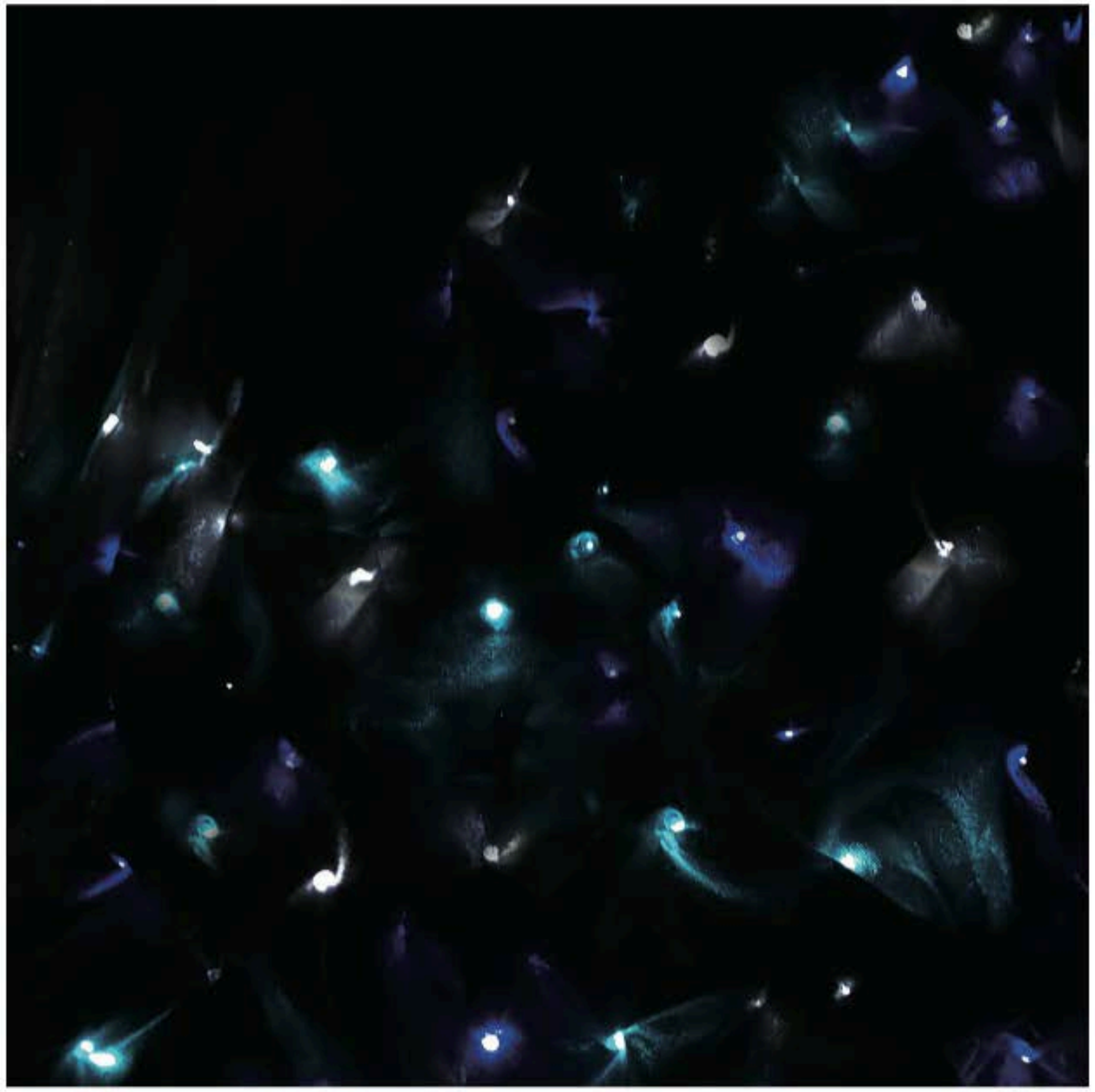
本提案は視覚障がいの有無に関わらず子どもたちに海の中の世界を楽しんで欲しいという願いを込めて制作しました。



高橋 基就
TAKAHASHI, Motonari

ホタルカーテン　―生物が作るつぶらな光を自宅で楽しむ―

Firefly curtain : Product that reproduces fantastic light created by living things and allows you to enjoy it closely



幻想的な光とはどんなものだろう、イルミネーションを見に行きたくなるのはなぜだろう。光の作り出す空間というものは人を引きつけるものがあると思う。これは忙しない日常の中に、時間がゆっくりと流れるような非日常的に感じる光の空間を作り出すカーテン。「ホタルイカの身投げ」の景色からインスピレーションを受け、生き物の作り出す自然の景色を再現することでより非日常的な時間を提案する。

「ホタルイカの身投げ」の景色は波の衝撃によってホタルイカが青白く光ることで出来る。光の反射の強い布を使い、その上に透ける布を使う事で波を表現し、光ファイバーとレジンを使うことでひとつひとつ違うホタルイカの光を再現した。また、スイッチを入れることでじんわりと光が移り変わるようにすることで波打つ度に変化する自然の景色を再現した。

毎日繰り返される生活の中に、幻想的な空間に浸る時間を作ることで、癒しと落ち着きを感じてもらいたい。

渡海 まどか

TOKAI, Madoka

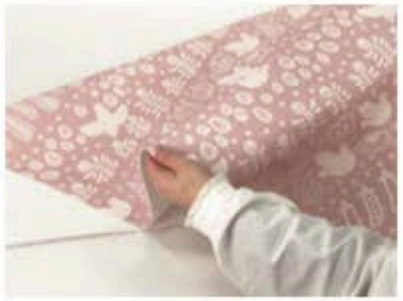
POPOPOP ―身近な生き物を通して動植物との共存を考える提案―

POPOPOP : Proposal for considering coexistence with wildlife through familiar animals

2019年末、オーストラリアで起きた大規模な森林火災によってコアラやカンガルーなどの多くの野生動植物が犠牲になりました。この出来事が起きたとき、自分が平和に生きている裏側で動物たちが苦しんでいることを知り、いてもたってもいられませんでした。

わたしたちが知らない間に、すみかを奪われ、餌となるものが減り、絶滅の危機に瀕している動物が多く存在しています。

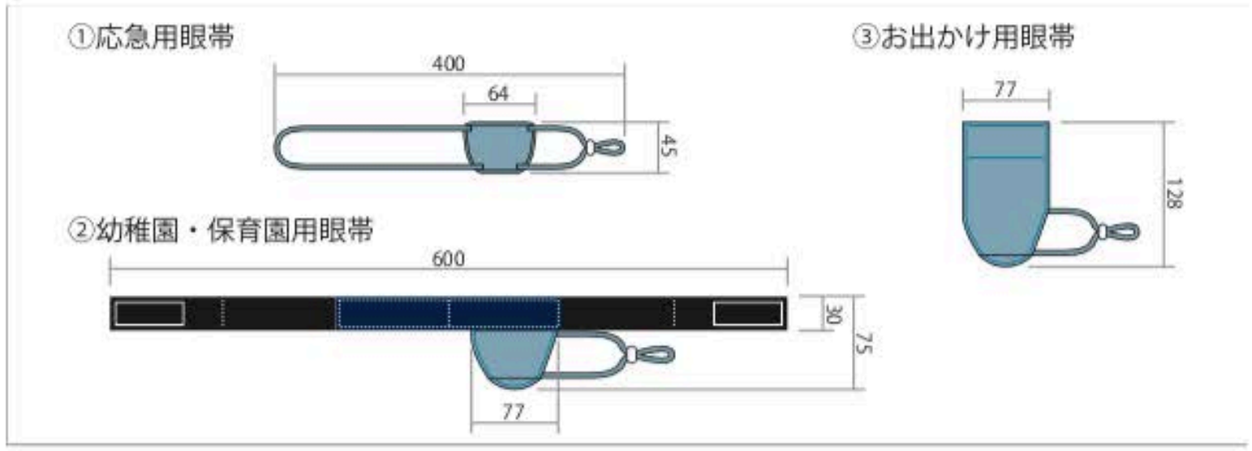
POPOPOPは、ハトを通して動植物との共存を考えるきっかけを提供するプロジェクトです。カプセルトイ、Tシャツ、絵本などのグッズを販売し、売り上げの一部を環境保護団体、森林や動物の保護団体などに寄付することを想定しています。POPOPOPを通して絶滅しそうになっている動物の存在に気づき、その動物たちや環境を守るために何ができるのかを考え、行動につなげてもらえればと思います。



前田 茉樹
MAEDA, Maki

アイピッタリン ―義眼をつける子どもたちにフィットする眼帯―

EyePittarin : Eye patches for children with artificial eyes allowing them to choose according to their needs



様々な目の疾患や事故などにより、義眼の装着を余儀なくされる子どもがいる。義眼装着時にはズレる、外れるといったトラブルの他、目の調子が悪く義眼を装着できない場面もしばしばある。そんな時に活躍するのが眼帯である。しかし、今世の中にある子ども用眼帯は種類が少なく、子どもの状態に応じた選択が難しい状況と言える。

そこで私は新たな"子ども用眼帯シリーズ"と、義眼ケアに必要なアイテムを１つにまとめた"ケアセット"を併せたブランド「アイピッタリン」を提案する。眼帯の展開は①サッと着けられる応急用眼帯 ②安定した装着が可能な幼稚園・保育園用眼帯 ③帽子に着脱可能なお出かけ用眼帯 ④さりげなくつけられる眼鏡型眼帯、の４アイテムである。

選択肢が増えることにより、それぞれの好みや場面、発達段階に応じた眼帯を選べるようになる。子ども自身が選び、着けることを楽しめるようになることを願う。

三浦 凜樹
MIURA, Rinju

MOBAR ―お酒を飲む場所を拡げるアウトドアプロダクト―

MOBAR : Outdoor products to create space for drinking alcohol comfortably

コロナ禍により家にいる時間が増え、お酒が好きな人は家飲みをする機会が増えたのではないか。でもずっと家にいると息がつまるため、外で飲みたくもなる。

そこでチェアリングという楽しみ方に着目する。チェアリングとは、アウトドア用の折り畳み椅子ひとつ持って外に出て、好きな場所でお酒を飲むという行為だ。醍醐味はお気に入りの場所を見つけること。

これを踏まえて、より快適性に優れた新しい価値を見出した。コンパクトな上キャスターがあり持ち運びに優れ、ゴミ捨ても簡単。クーラーボックスでお酒を保冷でき、氷も入れられるのでハイボールも作れる。これひとつ持っていけば、景色や音を楽しみながら快適にお酒を楽しめる。まるで外に小さなBARを持っていけるようなプロダクトを提案する。

大和 周平
YAMATO, Shuhei